

● 10月選評

小島なお

・Film (神奈川県)

煙のないところに

火は生まれていて

ビンゴカードの15を

潰す

根拠がなくともうわさが立つことはある。自分の知らぬところで、みなひとり一枚のビンゴカードをひそかに潰すように。そして唐突に響き渡るビンゴ。

・azusa (京都府)

秋の虹スーツでレストランに着き

大切にすべき相手との普段着ではない食事。秋の虹は淡くすぐに消える。やや硬い衣服の肌当りを感じながら、味も時間も虹のように彼方へ溶けていった。

・狛犬 吠 (岡山県)

古本のラベルみりみりと剥がして

どんな時でも動いてる雲

剥がし跡が残りそうな「みりみり」。粘着力の強いシールをゆっくりとかつ慎重に剥がすときの、よく目を凝らすと動いている上空の雲の速度。

・奥井 健太 (滋賀県)

冬近し絵を描く時のズボンです

絵具で汚してもいい作業用の雑なズボン。「です」は誰かに釈明しているように

も聞こえて愛らしい。秋の終わりの空気に画材の匂いが濃く漂っている。

・ 深谷 健（埼玉県）

すぐ行きます。

寂しい縄跳びの音です

大縄跳びの輪に入るタイミングをはかるように、暮らしを、社会を私たちは生きている。「すぐ行きます」と手を挙げて、懸命に縄の音に耳をそばだてる。

・ 互井宇宙論（埼玉県）

口のなかへ玉は運ばれ国となる

あなたがいるところこそ彼方

くがまえのなかに玉。古語で玉は美しい石であり、宝物を指す。あなたという存在の宝玉がいる場所こそがひとつの国であり、私はたちまち異国の人となる。

・ 快名（千葉県）

春風はあなたに貸され、返された

そういうサドルの高さを漕いで

あなたが使ったあとの春風は、あなたに使ったあとの自転車のようにどこかが特別にかわっている。それはサドルの高さだけではなくて、なにかもすべて。

・ 空音アオ（大阪府）

B 2から南瓜を持って3 Fへ

B 2も3 Fも地上で育った南瓜には未知のフロア。本来なら下に位置するはずの「B 2」が初句、「3 F」が結句に置かれている視覚的な倒錯もおもしろい。

・池田 彩乃（青森県）

曇天の庭で指環が外れそう

空間を垂れこめる曇天のくらい圧力と、指よりもすこし大きな指環。ぶかぶかとした感触は指を不安にさせながら、同時に自由にもさせる。この小さな庭で。

・伊田 鮎（東京都）

鶏頭の襷の奥へと詩を書きに

毛深い花序が幾重にも襷を畳む鶏頭。花束には嫌われるが、詩歌の素材としては好まれてきた。襷の奥はふかぶかとあたたかそうだ。詩作のための秋の小室。